八碁連だより

１月号　　第３０５号

発行日　平成２９年１月１日（日）
発行所　八王子囲碁連盟
住　所　八王子市久保山町２－３３－１６
電　話　０４２－６９１－８３４３
発行者　　松本　健彦
編集者　　中谷　勝信

１２月２日　高尾山山頂からの富士山

http://yasu1120.la.coocan.jp/hatigoren.html

八王子囲碁連盟の目的

八碁連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

琴棋書画は君子の嗜み

台町囲碁同好会　会長　高本　衛

室町・桃山時代あたりから、壺などの焼物、屏風や襖、掛け軸などに「琴棋書画」が描かれるようになった。「琴」は男性にはあまり縁がないので琴を代表とする音楽と考えられる。「棋」はもちろん囲碁で、単なる勝ち負けを競うゲームではなく、武士であれば戦略や大局観を養うにはうってつけであり、文化人と呼ばれる人はその芸術性や品格を身につける役割を担った。「書」は読書や文章を書くことのほか、文字を美しく書くという書道にも通じるものです。「画」は絵画を鑑賞したり、描いたりすることです。これらは古来より君子の嗜みとしてきた。庶民も同じく身につけるべきということでしょう。

私は君子には遠く及ばないけれど多少は学んできた。「琴」即ち音楽は全くダメだけれど妻は音大の声楽出で、「棋」は６０歳の還暦の日に合わせて日本棋院の終身名誉会員（七段）を允許された。「書」は高校時代に書道部の部長になり、先生の所属する書道展で全国３位を受賞したが、「画」は全く描けなくて、中学の時の写生では白紙のまま提出してたいへん叱られたこともあったほどです。

ところで、囲碁に関しては日本が長い歴史をもち、特に、江戸時代には幕府が（四）家に家禄を与えて競わせて人材を育成発展に努めたことで、優れた棋士を輩出した。また、愛好家の間にも広く浸透して、囲碁という奥の深い文化に親しみ、かつ、日本人ならではの探求心で普及・向上させて今日の繁栄に寄与してきた。しかし、近年になって、中国や韓国に「勝負」としては完全に追い越されてしまった。これは両国の囲碁を取り巻く社会の仕組みによるものであり、日本が追いつくことはこのままではまず不可能かもしれないが、これはやむを得ないことなので決して悔しがる必要はない。それよりその基盤を長い時間をかけて作ってき　たのは日本人だという誇りを持つべきでしょう。

少なくとも我々アマチュアは勝敗にあまりこだわらず、先祖が育んできた伝統文化を愛し、その価値を尊び学ぶべきで、同時に囲碁が与えてくれた教訓を活かして人生の糧とすべきではないか。

以前にコラムを掲載させていただいた「囲碁は敗者のないゲーム―結果よりプロセスが重要―」をモットーにして、囲碁を嗜むことを旨として残り少ない人生を送りたいと思っています。

２４回　八碁連タイトル囲碁大会のご案内

日　時　　平成２９年２月５日（日）　受付　午前９時～９時３０分
場　所　　東浅川保健福祉センター　４階（東浅川５５１－１　　電話　６６７－１３３１）
主　催　　八王子囲碁連盟（八碁連）　　後　援　　八王子市、日本棋院
参加資格　各地区同好会の平成２８年度前期・後期のタイトル獲得者（タイトル獲得者が参加できないときは、届済みの準優勝者が代わりに参加できます）
競技方法　八碁連方式　出場者を１月２３日までに下記へ連絡ください　　参加費　1,000 円
連絡先　　理事　佐藤　義廣　　住所　北野町　６１－１１
電話　６４４－２１４０　メール　sayosi@nifty.com

第２７回　八碁連囲碁大会（２段以下）の結果

八碁連囲碁大会２段以下の部が１１月２７日（日）に　行われ対戦に先立ち、今年８０歳になられた８名の方の高齢者表彰が行われました。

大会の結果　　参加者（６１名）

D組　（初段～二段）　２２名
優勝　小町谷常孝　初→二段/浅川　　準優勝　小西　弥一　二段/浅川　第三位　白石　好伸　二段/台町

E組　（４級～１級）　２０名
優勝　小関　秀規　１級→初段/長房　準優勝　長野千恵三　１級/長房　第三位　尾崎　健二　２級/恩方

F組　（８級～５級）　１９名
優勝　遠山　良孝　８級→７級/教室　準優勝　多田　泰子　６級/教室　第三位　奥　正之　　５級/恩方

試合前競技委員長の注意を聞く参加者

真剣に対局中の皆さん

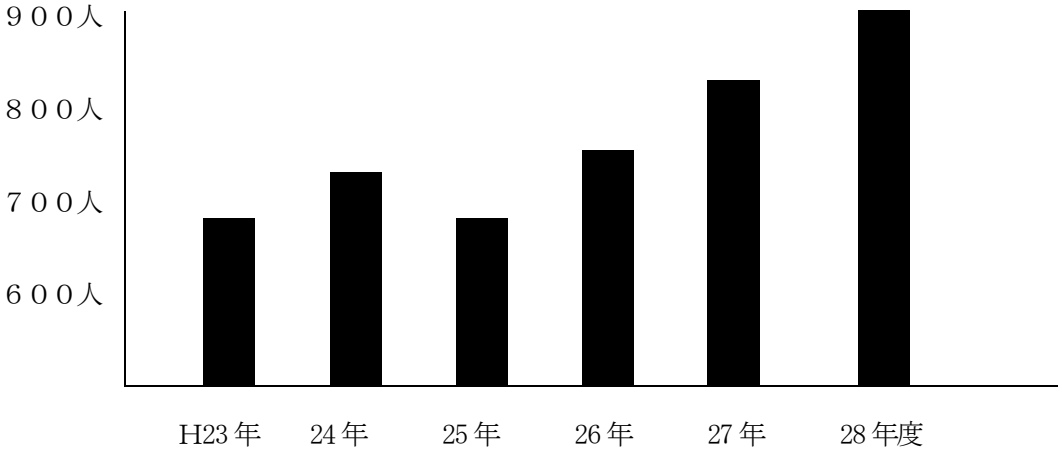
◎活きいき囲碁大会参加者数の推移

年度	淺川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	南大沢	北野	長房	川口	合計
23	60	79	72	48	64	49	62	54	74	69	58	689
24	80	74	68	52	68	58	58	64	74	67	54	717
25	65	74	56	54	61	62	54	54	65	70	55	670
26	57	71	58	60	77	60	64	77	88	70	71	753
27	84	84	81	72	74	69	65	49	91	90	84	843
28	94	90	86	69	79	66	70	60	87	99	77	877

◎　２８年度地区別活きいき囲碁大会参加者数

	浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	北野	長房	川口	南大沢	非会員	教室	計
浅川	２９	１６	１	４	６	１	４	５	１５	４	６	１	２	９４
恩方	７	３６	９	４	５	０	１	０	１７	７	２	２	０	９０
元八	３	２３	１４	３	６	３	３	０	１８	４	４	１	４	８６
中野	４	８	６	１４	７	２	１	１	１６	７	１	０	２	６９
大和田	２	９	３	９	１８	６	２	６	１１	６	５	０	２	７９
石川	５	７	１	７	６	１６	０	１	１３	３	４	０	３	６６
台町	６	９	２	６	７	１	８	３	１６	４	３	０	５	７０
北野	４	７	３	４	９	２	０	２３	１５	４	４	７	５	８７
長房	９	１１	５	８	１０	１	０	１	３９	６	３	０	６	９９
川口	４	１３	７	５	７	０	４	０	１４	１８	４	０	１	７７
南大沢	２	３	０	３	５	０	２	８	６	２	１９	７	３	６０
計	７５	142	５１	６７	８６	３２	２５	４８	180	７２	５５	１８	３３	８７７

活きいき囲碁大会参加数の推移



日本棋院八碁連支部コーナー

第３回 指導碁を終えて

去る１１月２７日（日）の八碁連大会（二段以下）に併せて、日本棋院の熊ホウ六段による指導碁を開催しました。ご参加下さいました皆様には、大変ありがとうございました。

一組４名で４組の方が、持ち時間１時間１５分で熱戦を繰り広げ、指導を受けられました。後日、ご感想をお聞きしましたところ、皆さんには大変楽しまれた由、何よりと思います。また、やり方等につき、ご意見も頂きました。是非、今後の参考にしたいと思います。ありがとうございました。

参加者氏名（敬称略）

A組	B組	C組	D組
小嶋英樹（長房七段）	信江峻（南大沢七段）	小田辰郎（長房六段）	吉田　旭（浅川六段）
徳満英世（恩方六段）	竹内朝晴（恩型六段）	坂内秀三（浅川六段）	三島敏明（浅川七段）
横内廣隆（浅川六段）	松本健彦（石川六段）	高索信幸（浅川六段）	望月毅士（中野五段）
磯部信広（中野六段）	金本好正（石川七段）	岩田大平（浅川六段）	南正一郎（浅川五段）

幹事　南　記

投稿

昨年を振り返って

北野囲碁同好会　　安原　明

歳のせいか年日の経つのが早く感じられます。でも振り返ってみると昨年も色々のことがありました。リオデジャネイロ五輪以外を川柳で綴ってみました。共感して頂ければ幸いです。

昔鉄 今はテロの巣 シリアかな（内戦やまず）
春疾風 スキージャンプの 快記録（高梨沙羅W杯総合優勝）
ＡＩが 名誉九段を 授けられ（アルファ碁韓国のイ・セドルに勝利）
強震に 新幹線も 浮き上がる（熊本地震Ｍ７．３）
増税も赤字も 延ばすように 見え（消費税値上げを延期）
神の名を語り 悪魔のテロ行為（ダッカで日本人７人を殺害）
年毎に 伸びる寿命を 追いかける（男性８０．７９）
列島を 窯に入れたる 暑さかな
予算など あって無きかの 五輪かな（小池知事は奮闘していますが）
英・米が１，２争うサプライズ（ＥＵ離脱とトランプ大統領）
酒飲めて 元気で 税金払いたし（酒税の税制改正）

形勢判断のススメ/やきもちをなくす

● 相手の地が大きく見えるのはなぜ？

隣の花は赤いではありませんが、碁では不思議に相手の地が大きく見えるものです。これを「やきもち」といい、我々の碁の大きな特徴（？）となっています。まだ級位くらいのレベルまでは囲碁の目的は石を取ることだと勘違いしている好戦的な棋風の人を見かけます。陣取りの碁に興味のない人もやきもちは関係ないかもしれません。でも、初段が近づくにつれ、地が気になってきます。相手のわずかばかりの地も許せんとばかりに、威勢よく打ち込んでいく方をみかけます。優勢だった碁がたちまち泥試合となって、最後は運のいいほうが勝つ。そういう打ち方を卒業しないと、碁はなかなか強くならないと思います。三段以上になるとあからさまなやきもちは少なくなりますが、それも形勢判断について、楽観的な人よりは悲観的な人の方が多いように感じます。「やきもち」の原因はしっかりした形勢判断（目算）の方法が身についていない為だと思います。

● 形勢判断は棋力に比例する

形勢判断はなかなか難しいものです、その一つに、ヨセがしっかり描けない（両先手・片先手・両後手があるのはご存知の通り）ためではないでしょうか、なにしろ我々の碁はヨセの巧屈で１０目や２０目は違ってきますので。次に形が決まっていないところを何目に見るかも難しいところです、どちらからも打つ可能性のある大きなところは、白が打った場合と黒が打った場合の想定図を描き計算し、それを折半する考え方があるそうですが、これは高段者でも難しいと思います。

また、敵の石を攻めるか、自分の弱い石を守るか、捨てるか、など作戦の岐路にたたされた時は一段落するまで先を読んだ上で目算しなければなりません。形勢判断といっても、読みの力まで関係するのです。

やきもちは我々の“特権”（高段者には失礼）。強くなるにしたがって形勢判断の力がつき、やきもちを焼く回数は減ってくるはずです。相手の石を取って勝つのは気持ちのいいものですが、石を取らせて勝つ喜びが味わえるようになれば、高段の域に達しているのではないでしょうか。

● ものぐさ形勢判断法

原始的な方法ですが、ざっと全体を見回して目分量で判断するという方法です。ものぐさな方法ですが、慣れてくると意外に正確なものです。

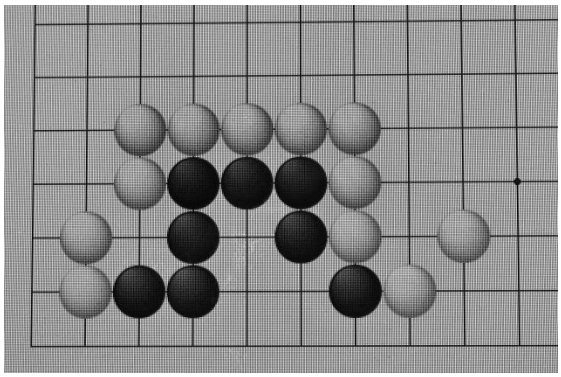
同じくらいの面積の黒地と白地を見つけて相殺し、最後に残った大きさの地を比べるという方法です。時には二つの地を合わせて相手の地と比べるようなこともします。たとえば、右辺の黒地は左上と左下の白地を合わせたものと同じくらい、という調子です。模様はどう考えたらよいのでしょうか、その場合は双方の確定地を相殺してゆき、残った地と模様を比べるのです、例えば、白の模様に対して残った黒地が２０目くらいだったとすると、白模様が２０目以下だと見れば黒が優勢と見ることができます。

形勢判断をしないと、白模様が実際よりも大きく見えて深入りし、打ち込んだ石を取られたり、逃げ回っているうちに他の石が危なくなったり、ほぼ確定地だったところを侵略されたりする危険が大きくなります。多少不正確であっても、形勢判断をした方が良いと思います。

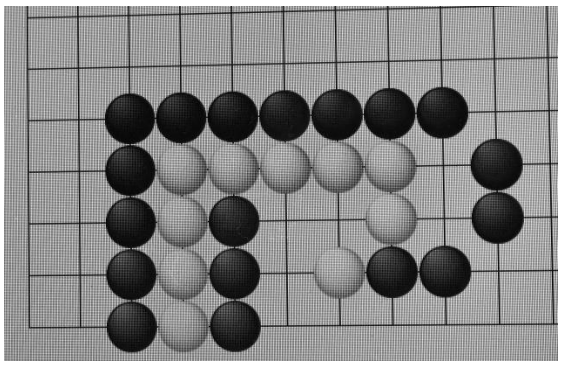
１２月号　実戦で役立つ辺の死活の解答

問題（1）　①　１８の七　②　１９の八　③　１７の六
　　④　１８の六　⑤　１９の七
問題（2）　①　１７の六　②　１８の六　③　１９の五

１月号　実戦で役立つ辺の死活



問題（1）
　　レベル　二段以下
黒番です
小品ですが広ければ良いとは限りません
対応を誤らないように注意しましょう。



問題（2）
　　レベル　三段以上
黒番です
見るからに危険な白の形ですが、
的確に弱点を攻撃する
テクニックが要求されます。

編集後記　　新年おめでとうございます。昨年傘寿を迎えました、しかし、なんのまだまだ役にたつの意気込みで今年も頑張ろうと思っています。巻頭の写真は１２月２日の朝テレビの天気予報で、今日は快晴でどこからでも富士山が見えると放送があり、すぐ支度をして高尾山（標高５９９m）に登って来ました。山頂から良く見えましたが遠いので望遠で撮りました、白黒だと見づらくて申し訳ない。皆さんもご家族の方々と一緒に良い新年を迎えられたことと拝察致します。冬場は遠くまで良く見えます、高尾山に登ってみて下さい、心身共に晴れ晴れとした気持ちになります。そして今年も囲碁を楽しみ、腕を磨きましょう。